

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクワン トウカイガクエン 学校法人 東海学園							
フリガナ大学の名称	トウカイガクエンダガク 東海学園大学(Tokai Gakuen University)							
大学本部の位置	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233							
大学の目的	本学は「勤儉誠実」の信念と「共生（ともいき）」の理念に基づき、人間力の向上を核とし、社会の発展と文化の向上に寄与できる、総合的教養を身につけた幅広い職業人の養成を目的とする。							
新設学部等の目的	<p>心理学部心理学科では、心に関する科学的な知識ならびに本学の建学の精神である「共生（ともいき）」の理念を基礎とし、自己、他者、社会等に関わる諸問題を体系的に理解できる人材の養成を目的とする。さらに、個人の対人的問題や心理的問題などが発生する要因と機序を的確に分析し、それらの解決策を提起し実行できる人材を養成する。教育課程においては人の心と行動を科学的に理解するための方法論系の教育を重視し、自他の心と客観的に向き合い、心の問題を多視点から捉える姿勢と能力を修得させる。また、公認心理師の学修要件に対応させ、基礎行動系から臨床応用系まで幅広い心理学専門教育を体系的に実施する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	心理学部(School of Psychology) 心理学科(Department of Psychology)	年	人	年次人	人	学士(心理学)	平成30年4月第1年次 平成32年4月第3年次	名古屋市天白区中平2丁目901
	計	4	100	3年次 2	404			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>人文学部 人文学科（3年次編入学定員減）（△1）（平成29年6月認可申請） 心理学科（廃止）（△100） （3年次編入学定員）（廃止）（△2） ※平成30年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は平成32年4月学生募集停止）</p> <p>教育学部 教育学科〔定員増〕（30）（平成29年6月認可申請） スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科〔定員増〕（25）（平成29年6月認可申請）</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	心理学部心理学科	講義	演習	実験・実習	計			
	心理学部心理学科	77科目	34科目	23科目	134科目	124単位		

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		
新設分	心理学部心理学科		9 (9)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	60 (60)
	計		9 (9)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	— (—)
既設分	経営学部経営学科		16 (16)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	82 (82)
	人文学部人文学科		10 (10)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	64 (64)
	教育学部教育学科		13 (13)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	25 (25)	1 (1)	72 (72)
	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科		12 (12)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	25 (25)	2 (2)	71 (71)
	健康栄養学部管理栄養学科		6 (6)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	7 (7)	56 (56)
	計		57 (57)	35 (35)	12 (12)	3 (3)	107 (107)	10 (10)	— (—)
合計			66 (66)	37 (37)	12 (12)	4 (4)	119 (119)	10 (10)	— (—)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		51人 (51)		57人 (57)		108 (108)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		4 (4)		12 (12)		16 (16)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計		55 (55)		69 (69)		124 (124)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	34,690.00㎡	0㎡		0㎡		34,690.00㎡		
	運動場用地	69,311.00㎡	0㎡		0㎡		69,311.00㎡		
	小計	104,001.00㎡	0㎡		0㎡		104,001.00㎡		
	その他	116,376.00㎡	0㎡		0㎡		116,376.00㎡		
	合計	220,377.00㎡	0㎡		0㎡		220,377.00㎡		
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
		44,981.00㎡ (44,981.00㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		44,981.00㎡ (44,981.00㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	51室	37室	20室	13室 (補助職員5人)	0室 (補助職員0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
		心理学部心理学科			12室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	「機械・器具」 「標本」 は大学全体を含む	
	心理学部 心理学科	8,300 [1,000] (7,092 [522])	25 [8] (22 [6])	600 [500] (493 [451])	500 (306)	3,755 (3,755)	45 (45)		
	計	8,300 [1,000] (7,092 [522])	25 [8] (22 [6])	600 [500] (493 [451])	500 (306)	3,755 (3,755)	45 (45)		
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数			
		5,503.99㎡		553席		501,302冊			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		5,428.20㎡		室内プール・トレーニングジム・ダンス室					

経費の見積り及び維持方法の概要	区分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体 図書購入費については経常経費の中で措置
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円			
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円			
		図書購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
		設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,350千円	1,190千円	1,190千円	1,190千円	一千円	一千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		完成時までの運営費は手数料収入・法人全体収入を充当する。							
既設大学等の状況	大学の名称 東海学園大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	経営学部 経営学科	4	230	3年次5	930	学士(経営学)	1.13	平成7年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233	
	人文学部 人文学科	4	100	3年次3	406	学士(人文学)	1.14 1.25	平成12年度	名古屋市天白区中平2丁目901	
	心理学部 心理学科	4	100	3年次2	404	学士(心理学)	1.03	平成26年度		
	教育学部 教育学科	4	150	3年次5	610	学士(教育)	1.21	平成24年度	名古屋市天白区中平2丁目901	
	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	4	235	3年次5	950	学士(スポーツ健康科学)	1.20	平成24年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233	
健康栄養学部 管理栄養学科	4	120	—	480	学士(栄養学)	1.05	平成23年度	名古屋市天白区中平2丁目901		
経営学研究科 経営学専攻	2	20	—	40	修士(経営学)	0.42	平成12年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233		
附属施設の概要		該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(心理学部心理学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共生	共生人間論Ⅰ (ブッダと法然)	1前	2			○								兼1
	共生人間論Ⅱ	3後	2			○								兼1
健康・スポーツ	共生人間論実習	2・3前・後		1				○						兼1
	健康と運動	1後		2		○								兼1
	スポーツ (バドミントン)	1・2・3・4前		1				○						兼1
	スポーツ (テニス)	1・2・3・4後		1				○						兼1
	スポーツ (バスケットボール)	1・2・3・4前		1				○						兼1
	スポーツ (バレーボール)	1・2・3・4前		1				○						兼1
	スポーツ (サッカー)	1・2・3・4前		1				○						兼1
	スポーツ (ソフトボール)	1・2・3・4後		1				○						兼1
	スポーツ (ゴルフ)	1・2・3・4後		1				○						兼1
	スポーツ (エアロビクス)	1・2・3・4後		1				○						兼1
キャリア	キャリアデザインⅠ	1前	2					○		1				
	キャリアデザインⅡ	1後	2					○		1				
外国語	総合英語Ⅰ	1前	1					○						兼1
	総合英語Ⅱ	1後	1					○						兼1
	総合英語Ⅲ	2後		1				○						兼1
	英会話Ⅰ	1前	1					○						兼1
	英会話Ⅱ	1後	1					○						兼1
	英会話Ⅲ	2前		1				○						兼1
	中国語Ⅰ	2前		1				○						兼1
	中国語Ⅱ	2後		1				○						兼1
	韓国語Ⅰ	2前		1				○						兼1
	韓国語Ⅱ	2後		1				○						兼1
	フランス語Ⅰ	2前		1				○						兼1
	フランス語Ⅱ	2後		1				○						兼1
	ポルトガル語Ⅰ	2前		1				○						兼1
	ポルトガル語Ⅱ	2後		1				○						兼1
	英語リーディング	3前		1				○		1				
英語ライティング	2前		1				○						兼1	
英語ディスカッション	3後		1				○						兼1	
日本語	日本語表現法A (音声)	1前・後		2				○						兼1
	日本語表現法B (文章)	1前・後		2				○						兼1

教育課程等の概要															
(心理学部心理学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目群	人文	日本の歴史	1前		2		○								兼1
		世界の歴史	1後		2		○								兼1
		異文化理解	2後		2		○								兼1
		哲学の基礎	1前		2		○			1					
		倫理学の基礎	3後		2		○			1					
		心のメカニズム	1後		2		○			1					
		日本の文学	1前		2		○								兼1
		外国の文学	2後		2		○			1					
	社会	憲法と基本権	1前		2		○								兼1
		社会生活と法	2前		2		○								兼1
		暮らしと経済	1後		2		○								兼1
		市民社会と政治	3前		2		○								兼1
		国際事情	3前		2		○								兼1
		社会福祉学の基礎	1前		2		○								兼1
		現代社会と生活	1前		2		○								兼1
	地域社会と共生	2後		2		○			1						
	自然	生活と環境	1後		2		○								兼1
		自然と環境	1前		2		○								兼1
		生命の科学	1前		2		○								兼1
		生活と化学	1後		2		○								兼1
		数学入門	1後		2		○								兼1
日本文化	日本文化論	1後		2		○								兼1	
	日本の文化(書道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	
	日本の文化(華道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	
	日本の文化(舞踊)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	
日本の文化(陶芸)	1・2・3・4通		1				○						兼1 集中		
情報	情報リテラシーA	1前		1				○						兼2	
	情報リテラシーB	1後		1				○						兼2	
海外研修	海外異文化研修A	1・2・3・4通		2				○						兼1 集中	
	海外異文化研修B	1・2・3・4通		4				○						兼1 集中	
	海外異文化研修C	1・2・3・4通		6				○						兼1 集中	
	小計 (65科目)	—		12	91	0		—		6	0	0	0	0	兼42

教育課程等の概要														
(心理学部心理学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	自然科学の基礎知識	1前		2		○			1					
	人文科学の基礎知識	1後		2		○			1					
	社会科学の基礎知識	2後		2		○			1					
	仕事の世界	2前		2		○			1					
	生涯学習概論	2後		2		○								兼1
小計 (5科目)			0	10	0	-			2	0	0	0	0	兼1
基幹科目	心理学概論	1前	2			○			1					
	心理学研究法・統計法	1後		2		○			1					
	心理学実験 I	2前	2					○	2					兼8
	心理学実験 II	2後	2					○	2					兼8
	実験心理学	2後		2		○			1					
	知覚・認知心理学 I	2前	2			○			1					
	知覚・認知心理学 II	2後		2		○			1					
	発達心理学	1後	2			○				1				
	教育心理学	2前		2		○				1				
	臨床心理学概論	1前		2		○				1				
	感情・人格心理学 I	1前		2		○			1					
	感情・人格心理学 II	2前		2		○				1				
	社会・集団・家族心理学	1前	2			○			1					
	対人認知論	1後		2		○			1					
	適応の心理学	3後		2		○			1					
	学習・言語心理学	3前		2		○								兼1
	神経・生理心理学	3前		2		○								兼1
	公認心理師の職責	4前		2		○			1					
	比較文化論	1後		2		○			1					
	心理統計法 I	1後	2			○			1					
	心理統計法 II	2前		2		○			1					
	心理統計法 III	2後		2		○				1				
	心理学英文講読 I	1前		2		○			1		1			
	心理学英文講読 II	1後		2		○			1					
小計 (24科目)			14	34	0	-			6	2	0	0	0	兼9
専門科目群	コミュニケーション心理学	1前		2		○								兼1
	心理測定法	3後		2		○				1				
	動物心理学	4前		2		○			1					
	色彩心理学	4前		2		○			1					
	教育・学校心理学	2後		2		○			1					
	障害者(児)心理学	2前		2		○								兼1
	生涯発達心理学	3前		2		○			1					
	児童心理学	3後		2		○				1				
	家族心理学	3前		2		○			1					
	産業・組織心理学	2前		2		○			1					
	環境心理学	3後		2		○								兼1
	応用心理学	3後		2		○								兼1
	文化心理学	4前		2		○			1					
	心理的アセスメント	2後		2		○			1					
	精神疾患とその治療	3後		2		○				1				
	健康・医療心理学	3前		2		○				1				
	福祉心理学	2後		2		○			1					
	心理学的支援法	3前		2		○			1					
	司法・犯罪心理学	3前		2		○								兼1
	調査法 I	2前	2			○			1					
	調査法 II	2後		2		○			2	1				兼1
	行動観察法	3後		2		○								兼1
	面接法	3前		2		○				1				兼1
	社会調査論	1後		2		○			1					
	調査演習 I	3前		2				○	1					
	調査演習 II	3後		2				○	1					
	ことばと認知	3前		2				○	1					
	論理と認知	4後		2				○	1					
	人体の構造と機能及び疾病	3前		2				○						兼1
	関係行政論	3後		2				○						兼1
	心理演習	4前		2				○	6	2				
	心理実習	4後		2				○	6	2				
小計 (32科目)			2	62	0	-			7	2	0	0	0	兼8

教育課程等の概要															
(心理学部心理学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習科目群	演習科目	基礎演習Ⅰ	1前	2				○		9	2		1		
		基礎演習Ⅱ	1後	2				○		9	2		1		
		基礎演習Ⅲ	2前	2				○		9	2		1		
		基礎演習Ⅳ	2後	2				○		9	2		1		
		総合演習Ⅰ	3前	2				○		9	2		1		
		総合演習Ⅱ	3後	2				○		9	2		1		
		総合演習Ⅲ	4前	2				○		9	2		1		
		総合演習Ⅳ	4後	2				○		9	2		1		
小計(8科目)			16	0	0		—		9	2	0	1	0	0	
合計(134科目)			—	44	197	0	—		9	2	0	1	0	兼60	
学位又は称号			心理学(学士)			学位又は学科の分野			文学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
全学共通科目群25単位以上、専門科目群の基礎科目6単位以上、基幹科目26単位以上、 展開応用科目30単位以上、演習科目群16単位修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録上限：49単位(年間))							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	共生 共生人間論Ⅰ(ブッダと法然)	21世紀は共生の世紀といわれる。しかし、世界情勢や国内の諸問題を見ると、また自然環境の破壊や汚染の状況を見ると、あまりにも反共生的な現実に溢れている。こうした現実を真正面から見詰め、その背景にある思想・価値観を捉え直す。これからの人類の生き方を仏教の開祖ブッダ・浄土宗の開祖法然の生涯と思想を踏まえながら、仏教理解とあわせて本学の教育理念、人材養成の根幹でもある「共生」と「勤儉誠実」の理解を深め、本学で学ぶ意義を主体的に捉えることを中心とする。なお、本講義中に「東海学園の歴史と共生」と題して自校教育を実施する。	
全学共通科目群	共生 共生人間論Ⅱ	「共生人間論Ⅰ」に引き続き、共生思想を基底に置いて眺めた現代社会の問題や、人間の生き方について講義する。さらに、それらの課題について、仏教の考え方に基づく共生の立場から、問題点を深く考察する。したがって、仏教のものの考え方、見方の理解からはじめて、本学の建学の精神である仏教の共生の理論について理解を深めることを目的とする。そのために仏教の基本的な思想構想としての縁起の思想、諸行無常、諸法無我という立場、菩薩の六波羅蜜行などについて理解を深める。 これらを踏まえながら「共生」を成り立たす理念の構築を行い、これからの人間の生き方を考える。	
全学共通科目群	共生 共生人間論実習	ライン、SNSといった間接的なコミュニケーションが発達し、全人的ないしは直接的な関係づくりの場が狭められてきている。そのことで私達は、人間的なふれあいをもとにした他者理解、自己に真摯に向き合う人間関係の確立に苦しみ、ともすれば「生きる意味」を見失いがちになっている。私達はいま、世代や個人の資質の違いに目を奪われて、さして意味のない差や小さな違いをこえがたく強固な壁のように感じる隔差社会を生きているのかもしれない。この実習では、そうした人と人を分離させ孤立に向かわせる力に対し、「ともに生きる」連帯と共感を培うプロセスを学ぶ。相手の立場に立って考える、そのことが常に求められる現場に赴き、そこに自分の偽らざる姿を映し出し、他者への思いが巡りめぐって自分に返ってくる体験をしてみる。	
全学共通科目群	健康・スポーツ 健康と運動	超高齢化社会を迎えて、健康に長生きすることは個人にとっても社会にとってもますます重要になってくる。そして、そのためには運動が極めて大切であることが多くの科学研究によって実証されている。 本講義では運動と健康との関係について理解を深めるために、各ライフステージにおける運動の意義や生活習慣病予防のために必要な運動を中心に概説する。受講生諸君が近い将来、社会に出て活躍するためにはまず、自らの健康管理能力を身につける必要がある。そのためにはどのような運動をすべきか、また、適正な身体組成を保つためには何をすべきかといった、実践能力を身につけてもらうことを目的とする。	
全学共通科目群	健康・スポーツ スポーツ(バドミントン)	高度に機械化・情報化の進んだ現代社会では、健康を維持・増進するためには、定期的な身体運動の継続が肝要である。本講義では、バドミントンを教材としてとりあげ、バドミントンの学修を通じて、健康を維持・増進するために生涯にわたってスポーツを楽しむながら実践する能力を養うことを目的とする。また、バドミントンの学修を通じて技術の向上を図ることは勿論のこと、体力の増進や全力を発揮する態度を養い、フェアプレー、スポーツマンシップを涵養し、仲間との交流を図ることも目的とする。	
全学共通科目群	健康・スポーツ スポーツ(テニス)	スポーツ種目の特徴を理解し、そのスポーツ種目の基礎的な技術の向上に努めるとともにゲームらしく行える戦術を学習し、参加者お互いが楽しめるよう努力する。 体操やスポーツゲームで身体を動かすことは、食物から栄養を摂取することと同様に人間の身体には不可欠なことである。したがって、生涯身体運動が楽しく実践できるように、この授業では基本的な技術の習得を主たる目的とする。	
全学共通科目群	健康・スポーツ スポーツ(バスケットボール)	バスケットボールは、ほとんどの小学校や中学校で取り入れられている生涯スポーツの1つである。また、国内国外を問わず多くの大会が開催されている競技スポーツの1つでもある。 この授業では、バスケットボールをレクリエーションスポーツ・競技スポーツの両面からとらえ、実践を通して競技に必要な知識や実技を学ぶ。試合ゲームを基本とし、その中から問題点や改善点を修正していく。	
全学共通科目群	健康・スポーツ スポーツ(バレーボール)	バレーボールはチームスポーツであるため、お互いの協力が重要である。本授業では、バレーボールの個人技術の向上、技術・戦術を学ぶだけでなく、授業を通して、特に協調性を学ぶことを目的とする。 また、相互のコミュニケーション能力を養い、生涯スポーツの一つとして、バレーボールを楽しく実践することも目的とする。そのため、本授業では、誰とでも人見知りせず積極的に学びあい、楽しみ、目標に向かって協力し合える学生の受講を希望する。	



授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	健康・スポーツ スポーツ (サッカー)	サッカーという競技の楽しさとは、状況を把握し、自分が判断してプレー(行動)を決定し、イメージ通りにプレーできることである。この授業ではサッカーのプレーを上達させるため、様々な練習メニューを通じて、各スキルの獲得を目的とする。 ”日本サッカーの父”として知られるデトマール・クラマーの「サッカーは少年を大人にし、大人を紳士にするスポーツである。」という言葉のもつ意味を理解し、スポーツの精神、フェアプレーの精神およびクラスメイト(チームメイト)とのコミュニケーションを体現できる教養と人格を身に付けることを目指す。	
全学共通科目群	健康・スポーツ スポーツ (ソフトボール)	ソフトボールは現在でも老若男女に親しまれ、地域の運動や学校体育でも盛んに行われている生涯スポーツの1つである。わが国では、ソフトボール日本代表女子チームが国際大会におけるすばらしい活躍により競技スポーツとしての人気も高い。 この授業では、ソフトボールを競技スポーツと捉え、実践練習や試合を通して競技に関する知識や技能を習得する事を目的とする。またソフトボールは団体スポーツのため、「チームワーク」、「仲間との交流」の大切さを知り、みんなが楽しく声をかけ合える授業にしたいと考えている。	
全学共通科目群	健康・スポーツ スポーツ (ゴルフ)	ゴルフは生涯スポーツの1つとして、今や男女問わず親しまれている。 ゴルフを楽しむプレーするには、まず基本を正確に知ることである。本授業では理論をふまえて、基本的なスイングを身につけることを目的としている。なお、ボールを限りなく打ったからといって、すぐに上達するとは限らないのもゴルフの特性である。この授業を通じて協調性、仲間意識を育て、全力を尽くす態度を養う。	
全学共通科目群	健康・スポーツ スポーツ (エアロビクス)	エアロビクスダンスエクササイズの魅力を感じ、基本動作の習得と、それらを自己の身体で表現する能力を身につける。これに伴い、安全に関しての知識も学ぶ。 「健康運動実践指導者認定試験」の実技科目としての対応も考慮する。	
全学共通科目群	健康・スポーツ スポーツ (アクアビクス)	超高齢化社会を迎えたわが国では、寝たきりにならず生涯にわたって健康で自立した生活を営むことが求められている。この授業では、アクアビクスを教材として取り上げ、アクアビクスの学習を通じて生涯にわたってスポーツを実践する能力を養うことを目的とする。また、アクアビクスの技術を向上させることは勿論のこと、体力の増進を図ると同時に仲間との交流も目的とする。	
全学共通科目群	キャリア キャリアデザインⅠ	大学に入学したばかりの1年生の皆さんには、「キャリア」という言葉を聞いてもまだまだ先のことであるというイメージがあるかも知れません。確かに「キャリア=就職」と考えるならばキャリアについて考えるのはもう少し遅くてもよいのかも知れません。しかし本授業で扱う「キャリア」は「これからの人生の過ごし方」というような、少し広い意味で捉えてもらいたい。これからの長い人生において、様々な夢を実現させていくためにやっておかなければならないこと、そして身につけておかなければならない知識やスキルがあります。本授業では、まず自己を理解することから始め、さらに自己を取り巻く社会についての理解を深めます。またその学習過程において、コミュニケーション・スキルなどの社会的スキルの向上も目指します。	
全学共通科目群	キャリア キャリアデザインⅡ	キャリアデザインⅠでの学びを通し、皆さんは今後の人生やキャリアについての意識を高めていると思います。本授業では、職業観・勤労観という観点から、これから自分の進むべき道について考えていきます。社会の中で将来の夢を実現させていくためには、今自分が何をなすべきか、大学生活の目標をどのように設定すべきかについて適切に認識し、その達成のためにはどのような知識やスキルが必要であるのかについての理解を深めます。また、キャリアデザインⅠと同様に、コミュニケーション・スキルなどの社会的スキルの向上も目指します。	
全学共通科目群	外国語 総合英語Ⅰ	グローバル時代の現代、国内・国外で世界共通語としての英語を使用する機会は、仕事・文化交流・日常生活等においてますます増加している。本授業では、社会の要請に応え、主として英語の聞く・読む・書く技能の向上をめざす。特に、英文法の基礎的な知識を再確認し、パラグラフ(100語から400語)の内容を理解した上で、文章全体を把握する英語の読解力を修得することをめざす。さらに、世界の政治・経済・文化・事情等をテーマとした英文読解を通して、英語力の修得のみならず、異文化理解や世界の現状の把握も行う。なお、授業クラス編成は入学時に受験するTOEIC Bridgeの点数に応じて編成されている。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	外国語 総合英語Ⅱ	「総合英語Ⅰ」に引き続き、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、主として英語の聞く・読む・書く技能の向上をめざす。特に、英文法の知識をより確かなものにした上で、パラグラフ(150語から400語)の内容を理解した上で、文章全体を把握する英語の読解力を修得する。そのために、語彙力を身につけ、多くの慣用表現にも慣れる。さらに、世界の政治・経済・文化・事情等をテーマとした英文読解を通して、英語力の修得のみならず、異文化理解や世界の現状の把握も行う。 なお、授業クラスは、「総合英語Ⅰ」と同じクラスである。	
全学共通科目群	外国語 総合英語Ⅲ	「総合英語Ⅱ」に引き続き、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、主として英語の聞く・読む・書く技能の向上をめざす。特に、英文法の知識を確かなものにした上で、パラグラフ(200語から500語)の内容を理解した上で、文章全体を把握する英語の読解力を修得する。そのために一層語彙力を身につけ、多くの慣用表現にも慣れ、図・表の読み取りもできるようになる。さらに、世界の政治・経済・文化・事情等をテーマとした英文読解を通して、英語力の修得のみならず、異文化理解や世界の現状の把握も行う。 なお、授業クラス編成は1年終了時に受験するTOEIC Bridgeの点数に応じて編成されている。	
全学共通科目群	外国語 英会話Ⅰ	本授業では、社会の要請に応え、主として英語の聞く・話す・書く技能の向上をめざす。そのために既に修得した英語の知識をより強固なものにするるとともに、日常生活で触れる英語や新たに修得する英語を使って、自分の意見を述べ、相手の発言を聞く自信をつける。そのために、学生同士のペアワークやグループワーク、また短いライティングを行い、さらに定期的なテストやインタビューテストを通して英語力を定着させる。担当教員と異なる教員によるインタビューテストは、英語の母語話者との交流機会となる。 なお、授業クラス編成は入学時に受験するTOEIC Bridgeの点数に応じて編成されている。	
全学共通科目群	外国語 英会話Ⅱ	本授業では、「英会話Ⅰ」に引き続き、社会の要請に応え、主として英語の聞く・話す・書く技能の向上をめざす。そのために既に修得した英語の知識を一層強固なものにするるとともに、日常生活で触れる英語や新たに修得する英語を使って、会話をより具体化し、自分の意見を表明し、相手の意見を聞く力を修得する。そのために、学生同士のペアワークやグループワーク、また短いライティングを行い、さらに定期的なテストやインタビューテストを通して英語力を一層定着させる。担当教員と異なる教員によるインタビューテストは、英語の母語話者との交流機会となる。 なお、授業クラスは、「総合英語Ⅰ」と同じクラスである。	
全学共通科目群	外国語 英会話Ⅲ	本授業では、「英会話Ⅱ」で修得した英語の知識を使用して、授業中に他の学生と様々な練習を行うことで修得する、すなわち「実践することで修得する」ということがクラスの鍵となる。自分たちがよく知っているテーマに関する質問を考え、答えるという実践的な練習を通して、3つの主要な時制(現在・過去・現在完了)を修得する。また、定期的な授業中の小テストや宿題を通して、英語の構造に関する知識と語彙力を強化する。 なお、授業クラス編成は入学時に受験するTOEIC Bridgeの点数に応じて編成されている。	
全学共通科目群	外国語 中国語Ⅰ	外国語としての中国語を理解し、使用できるようになるために、最も初歩的な基礎の習得を目的とする。ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の基本文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。特に、正確な発音と、聞くことのできる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。	
全学共通科目群	外国語 中国語Ⅱ	外国語としての中国語を理解し、使用できるようになるために、初歩的な基礎の習得を目的とする。ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。文法の理解と、作文および翻訳できる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。	
全学共通科目群	外国語 韓国語Ⅰ	この授業では、韓国語の発音と基礎文法を学び、簡単な日常会話ができるレベルを目指す。ハングル文字の仕組みを学ぶことで、日常生活でよく使われるハングル文字を読み書きできるよう学習していく。また、韓国語に触れることで、日本文化と関係が深い隣国、韓国の風習や文化を知る。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	外国語 韓国語Ⅱ	この授業では、韓国語の文法を学習しながら会話の練習や平易な文章の講読も行い、バランスよく韓国語を学んでいく。また、言語の支えとなる習慣や歴史、社会事情などの韓国の生きた文化に触れながら理解を深めていく。	
全学共通科目群	外国語 フランス語Ⅰ	この授業では、フランス語の知識のレベルをゼロから基礎のレベルまで引き上げ、簡単なフランス語で他の人と交流することができるようになることをめざす。フランス語の基礎的な文法を理解し、自己紹介、趣味、日常生活や好みなどの簡単な日常の話題についてペアワークやグループワークにより、表現することができるようにする。小テストを通して、4つのスキル（リーディング、スピーキング、リスニング、ライティング）を繰り返し使うことで、知識が定着する。	
全学共通科目群	外国語 フランス語Ⅱ	この授業では、「フランス語Ⅰ」に引き続き、フランス語の基礎知識を高め、簡単なフランス語で他の人と交流することができるようになることをめざす。フランス語の基礎的な文法を理解し、自己紹介、趣味、日常生活や好みなどの簡単な日常の話題についてペアワークやグループワークにより、表現することができるようにする。小テストを通して、4つのスキル（リーディング、スピーキング、リスニング、ライティング）を繰り返し使うことで、知識がきちんと身につけているかどうか確かめられる。学期の後半では、過去時制を修得し、自分自身を表現するための更なる方法を修得する。	
全学共通科目群	外国語 ポルトガル語Ⅰ	この授業では、日本における多言語・多文化の現況や将来を見据え、ブラジル出身の人々とコミュニケーションが図れるようになることを目的とする。そのために、ブラジル・ポルトガル語の発音、挨拶表現、文法等、初歩から学習していく。まずは発音に慣れ、次に簡単な挨拶や身近な表現を学んでいく。日常会話が可能になる程度のポルトガル語の能力を育成することを目標にする。	
全学共通科目群	外国語 ポルトガル語Ⅱ	この授業では、ポルトガル語Ⅰに続き、日本における多言語・多文化の現況や将来を見据え、日本に在住しているブラジル出身の人々やポルトガル語圏の人々とコミュニケーションが図れるようになることを目的とする。そのために、日常に関する様々な場面を想定し、「聞く・話す」の能力向上し、会話力を養成することを目標にする。	
全学共通科目群	外国語 英語リーディング	この授業の目的は、英語を「読む」ことを通じて英語の語彙力と読解力を向上させ、批判的な思考を発展させることである。特に、グローバルな視点をもって異文化を理解するために、イギリス児童文学の傑作の一つに数えられる『メリー・ポピンズ』を取り上げる。辞書を引きながら作品を読むことで語彙を増やし、英語の表現を学ぶ。また、作品を通して、その背景にある20世紀のイギリス社会の文化・思想・哲学を理解する。	
全学共通科目群	外国語 英語ライティング	この授業の目的は、様々な種類の文を作成して、文章を構成するために必要な語彙力を身につけ、文法力を向上し、初級のライティングスキルを修得し、自信を持って文章が書けるようになることである。そのために、テーマ別の英語を読むことにより文法や表現方法を学習し、それを応用してライティングに結びつける練習を行う。制限時間内に分かりやすい文章を書くことと、ある特定のテーマについてチームライティングも行う。各段階で、作文と補足課題が課される。	
全学共通科目群	外国語 英語ディスカッション	本授業は実践的かつ協働的なスタイルで実施され、ディスカッション活動を通して受講生が英語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に向上させることを目的とする。授業では様々な題材や活動を取り入れ、受講生が自信と能力を兼ね備えた英語の使い手となることを目指す。また、自然と流暢な英語表現力を身につけるために、様々な話題に適応できる語彙力や表現力の強化を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	日本語 日本語表現法A (音声)	話し言葉の基本を体得する。日常的な会話から、目的をもったスピーチやプレゼンテーションまで、話し方の技術を学んでいく。そして、人前でもきちんと自分の意見が述べられるようにする。 そのために、アクセント、イントネーションなどの音声表現や、目上の相手との会話に必要な敬語などについても学ぶ。また、スピーチやプレゼンテーションなどをするため、材料を集め、構想を練って話す方法なども習得する。	
全学共通科目群	日本語 日本語表現法B (文章)	文章表現の基本を体得する。日常的・実用的な文章から、芸術的な文章まで、いろいろな文章を書くことで、書くことの楽しさを身につける。文章を書くために、日常の観察や、取材の仕方、資料の集め方などの基礎を学ぶ。その上で、企画し、構想を練って書く工夫をする。わかりやすく書くためにはどのようにしたらいいのかを考える。誤字、脱字のない文章を書くことは理想であるが、ともかく相手に自分の考えていることを伝えられるようにする。	
全学共通科目群	人文 日本の歴史	古代から戦後までの日本の通史をトピック的に学びます。講義全体の柱として第一に、東アジア的視点から「日本」、「日本人」のアイデンティティと近隣諸地域との関係を問い直します。同時に第二に、近現代では日本の民主主義の発達とその歴史段階的な限界性にも目を向けながら、政治における権力の正統性の重要性や社会経済・国際的要因との関連性を概観します。	
全学共通科目群	人文 世界の歴史	グローバル化時代を生きる現在、環境・政治・経済・文化など、あらゆる分野において地球規模で世界を理解することが、時代の要求として求められています。世界で生じる問題には世界が一体となって取り組まなければならない、一国や狭い地域の枠を超えた世界理解が必要になっています。その一方で、21世紀の日本には、日本独自の課題があるのも事実です。本講義ではこうした世界観に立って、古代から現代までの歴史を大きな流れのなかで捉えます。とりわけ、一神教の世界を中心にみていきますが、それは、この地域の躍動する歴史を理解することが現在の世界の動向を（ひいては日本が直面する課題を）理解するうえで欠かせないからです。	
全学共通科目群	人文 異文化理解	グローバル時代において、異なる価値観、考え方に絶えずさらされており、異文化理解は欠かせない。異文化理解のために、第一に、文化とは何かを理解することからはじめる。文化は歴史のおよび地理的要因から形成され、また、民族や社会的集団においても固有の文化が形成されている。次に、異文化を理解するために必要な文化相対主義の考え方を理解する。さらに、具体的な文化の多様性、さまざまな事例にもとづき、批判的に自文化や他の文化の習慣・風習などを受け止めることができるよう知識を得るとともに、互いを尊重する態度を形成する。その上で、さまざまな「文化」にまつわる問題を紹介し、異文化間における問題解決をはかるにはどのようにしたらよいか、文化を異にする人間同士が共に生きるための示唆を得る。	
全学共通科目群	人文 哲学の基礎	哲学は、常識や科学的な判断などをそのまま受けいれずに、その前提にまでさかのぼって吟味しようとする。新しい考え方をつかんだ、と思った人がいても、既に過去の哲学者や思想家が同じようなことを考えていた、ということはよくある。したがって、新たなアイデアを模索するだけでなく、過去の学説を学び、考え方の基本に立ち返ることでかえって難局が打開されることもある。そこで、この講義では、西洋哲学の歴史を振り返りながら、基本となる事柄を考え直してみることにしたい。	
全学共通科目群	人文 倫理学の基礎	何が「よい」（「悪い」）ことかを研究するのが倫理学である。主として西洋のアリストテレス以来の倫理思想の紹介を目的とするが、比較対照のために東洋の倫理學説にもふれたい。また近年、新しい問題群として注目を集めている「生命倫理」や「環境倫理」の主なテーマについても説明する。特に重点をおきたいのは、諸学説に関する単なる事典的知識の習得ではなく、何が問題となっているか、どういう考え方があるのか、という内容的な理解である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	人文 心のメカニズム	心理学は一般に生活体の行動の科学と言われている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにしていく学問が心理学である。心理学には、認知心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など多くの分野がある。この講義ではこれらの分野の理解に必要な基礎的な知識をとりあげ、心理学が扱う問題と考え方について学ぶことを目的とする。	
全学共通科目群	人文 日本の文学	文学・芸術について、及び、読書・表現方法という総論に始まり、次に、詩から随筆、評論と、各ジャンルにわたって読んでいく。 詩では、自然、都市などの「風景」を、随筆では、友情、人生など「人間」を、評論では、自我と他我、個人と社会など「思想」を学ぶ。 具体的に作品を読み、多面的に分析することによって、より文学に接近する。文学に対する親しみを深め、芸術を鑑賞する力をつけるとともに、思考力を高めることを目的としている。	
全学共通科目群	人文 外国の文学	本講義の目的は、外国の文学を通して人間に普遍的なものと作品の舞台背景となったその国特有なものを学ぶことにより、自国の文化や社会を客観視し、日常生活を豊かにするとともに、現在や将来を見通す力を養うことである。 外国文学のなかでも、日ごろ接する機会の少ないインドの作品(英文)を読み、その背景にある文化や思想を理解できるようになる。実際に作品に触れることで、文学に描かれる文化的背景やそのニュアンスを捉えることができるようにする。	
全学共通科目群	社会 憲法と基本権	日本国憲法が施行されて70年になる。その間、平和主義を規定した第9条の解釈をはじめとして、憲法そのものの評価をめぐってさまざまな議論がなされ、昨今は憲法改正も取りざたされている。こうした憲法のあり方について最終的な決定権を持つわれわれは、憲法の理念を正しく理解しておく必要がある。憲法は、憲法総論、基本的人権、統治機構の3つの学習分野に大別できるが、最も重要なのは基本的人権の分野であり、基本的人権についての学習が憲法学習の中心となる。そこで、授業では、基本的人権の保障とその内容を中心に解説をし、基本的人権についての理解を深めることを目的とする。なお、憲法総論、統治機構の分野についても必要な限り説明をする。	
全学共通科目群	社会 社会生活と法	社会生活を営むうえで直面する様々な法律問題のうち、身近で日常的な事柄に関して、私法上の法律知識を与えることを講義の目的とします。民法を中心として基本概念を具体的事例も混えて説明することになりますが、必要に応じて関連する法制度にも言及します。また不幸にも法的紛争が生じてしまった場合にどのような解決手段が考えられるかにも簡単に触れます。 日常生活する民事上の事柄について、法的側面から考えることができるだけの基本的な知識と能力の取得を目標とします。	
全学共通科目群	社会 暮らしと経済	本講義では、「暮らし」の中で起こっている様々な出来事と「経済」の関わりについて、ビデオ教材を活用して考えていきます。皆さんが最も関心があるであろう、娯楽や衣食なども、すべて「経済」に直結しています。そして、日本経済・世界経済の変動は様々な経路を通じて、私たちの生活に影響を与えています。皆さんが日常生活の中で慣れ親しんでいる題材を通じて、経済やビジネス・経営に関心を持ってもらうことが、この講義の最大の目的です。本講義では、毎回1,000文字程度のレポートを提出してもらいます。レポートは感想文ではありません。どのように書けば、大学生らしいレポートになるのか、といった指導も随時行っていきます。	
全学共通科目群	社会 市民社会と政治	大学での学問としての政治学とは、どのようなものだろうか。現実の政治を理解するとは、どのようなことだろうか。これらのことを、日本の政治を材料にしながら考えていきます。 現在の日本の政治は、長期にわたる自民党一党優位の時代(1955~1993年)の後、政権交代、連立政権の時代を迎え、2009年には民主党、2012年には再度自民党を中心とする政権が誕生しました。このような大きな時代の変化をおさえながら、日本の政治の基本的仕組みと問題点、改革の課題等を理解していきたいと思います。	
全学共通科目群	社会 国際事情	グローバル時代の現代において、世界の事情は日本に影響を与え、日本の事情も世界に影響を与えている。日本の政治や経済は世界の政治や経済に連動し、私たちの現在や将来の活動もそれに左右される。日常生活においても、文化的に外国の影響を受け、また日本の文化も世界に影響を与えている。私たちは、まさしく世界の一員として生きているのである。 本授業の目的は、このような時代にあつて、日本と関連のある世界の国々の政治的・社会的・文化的事情を学び、私たちのおかれた現在や将来を考える基にすることである。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	社会 社会福祉学の基礎	人間は、日常生活の中でおきる様々な出来事に対して、基本的には、自分の力でその解決に努力しなければならない。それが難しい場合でも、多くの人はその家族や友人あるいは初対面なひとからの手助けを受けることで、生活上の問題を解決している。しかし、一部の子供達、障がい者、高齢者、病人や病弱な人々等は、他者からの協力が得られず、ひとりで生活問題に取り組まなければならない事態も生じている。社会福祉制度は、人間が生きる上で遭遇する数多くの生活上の問題に対して、他者に頼って解決し、生きていくことの困難な状態、人々を支援、救済するための仕組みである。生きていく上で、決して抱えないとは言えない生活上の諸問題は、社会福祉制度が存在することによって、誰もが安心して向き合えるさほど大きくない問題になっている。本授業では、こうした社会福祉制度を、社会福祉学といったひとつの学問体系的視点から、出来るだけわかりやすく講義する。	
全学共通科目群	社会 現代社会と生活	この授業では、日本の社会で現実に行き起きているさまざまな出来事を取りあげながら、社会がどのような仕組みで成り立っているのかを考えていきます。実際に、社会で起きているさまざまな出来事、家族や地域社会、介護、貧困と格差、エネルギー問題、環境問題、災害対策などについて見ていながら、現代社会の問題について考えていきます。社会が見えにくい時代ですが、自分の生活を見直す中で、自分の身近なことが社会とつながっていることを理解してほしいと思います。家族や地域のことから、政治や経済のことまで幅広く扱います。社会生活を送っていくうえで必要な知識を身につけて、社会で生きることを考えてほしいと思います。	
全学共通科目群	社会 地域社会と共生	東海学園大学の教育理念は「共生(ともいき)」であり、共生の観点に立つ人間力の向上を目指した教育を実践している。現在、「共生」という言葉は、様々な意味で使われているが、この科目では、広い概念としての共生をとらえ、2つの側面「人間同士の共生」と「人間と自然との共生」について考察する。	
全学共通科目群	自然 生活と環境	私たちを取り巻く環境にはさまざまなものがある。衣服は「人間を取り巻く最も身近な環境」といわれ、着装によって、身体的および心理的に快適な人工環境を作り出すことが要求されている。色彩も、また、快適な生活を送るうえで重要な役割を果たしており、多岐にわたる分野で、その効果が期待されている。そこで、本授業では衣環境と色彩環境に着目して、その基礎的知識を修得し、健康で快適な生活について追求することを目的とする。	
全学共通科目群	自然 自然と環境	人は自然環境とともに生き、また、新たな人為的環境をつくり出しながら生活をしている。人為的環境は身体的・心理的快適性を私たちに与えてくれるが、反面、自然環境に負の影響を与えることもある。本講義では、人為的環境がもたらす地球環境の変化と、人間生活に与える人為的環境の効果、中でも衣環境の効果を中心に学習し、安全で快適な環境のあり方について一人一人が考えを確立する機会とする。	
全学共通科目群	自然 生命の科学	地球上に生命が誕生して以来、生物は地球上の大気・陸圏・水圏環境と互いに影響を及ぼしながら多様に進化を遂げてきた。私たちも生物の一員であり、他の生物と深い関わりを持って生きている。人類が将来にわたり持続的に発展していくためには、現在を生きる私たち自身が生命現象の仕組みや生物間の相互関係について、基礎的理解力を身につけておくことが重要である。 本講義では、生命が地球上に出現してから、生物がどのように環境と関わりを持って多様化し、進化を遂げてきたのか、またどのようなしくみで生命が維持され、次世代につながるのかについて基礎的知識を教授する。	
全学共通科目群	自然 生活と化学	化学は基礎的な学問であると同時に、私たちの生活のなかで必要不可欠なものすべてに関係する身近な学問でもある。この講義は、高校の化学を基礎として、大学生に必要な教養レベルの化学を効率よく修得する最も近道な方法として、日常生活に着目し、どのように“たくさんの”化学物質”に囲まれあるいはそれらを利用しているか理解しながら生活の場を入口として、無機化学、有機化学の基礎について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	自然 数学入門	<p>授業のレベルは“もう一度基礎から”です。“数”としては実数をつまみつかます。そして2つの実数の組を新しい二次元の“数”として導入します。でも難しくありません。とても簡単です。その応用として中学の連立方程式の解法を現代数学的に書きなおします。内容は古いものですが、ちょっと目新しくかつやさしいので“数学の基本的手法”の理解には、よい教材になります。</p> <p>初等教育の数学で、幾何、とりわけピタゴラスの定理はかかせません。応用練習をしたのち、ピタゴラスの定理の証明にアタックします。三種類のまったく異なる証明を学ぶことにより数学に対する興味がより深まることと思います。</p> <p>多角形の外角の和など中1の幾何の内容も、ちょっと異なる視点であつかひます。</p> <p>授業全体を通して、素材は中学数学、計算はほんとうに初等的なものに限りませんが、中学数学とは異なる大学生のための数学入門です。</p>	
全学共通科目群	日本文化 日本文化論	<p>日本人が暮らしのなかに伝えてきた「祭り」を通して「祭祀儀礼」、ことに稲作儀礼について学び、稲作をめぐる古代神話と信仰について考える。</p> <p>祭りのうちに伝えられてきた稲作儀礼と神話について学び、稲魂信仰と穀霊信仰のかたちを通して、日本の伝承文化の意義を知る。</p>	
全学共通科目群	日本文化 日本の文化（書道）	<p>悠久の豊かな中国の名品と日本の優美華麗な名筆をビデオなどによって接し鑑賞する。書の様々な歴史的意義、流れを知る。実技によって、うるわしい書の技法を学び、個性溢れる様々な楽しい作品を制作する。また、会社実務や日常の暮らしの中で役立つ実用書道を学ぶ。大学を卒業し、社会人として活動する時、社会の常識として必要な知識を修得し、どんな場でもスムーズに上手に正しく書けるように、書を身につける。</p> <p>パソコンの整然と表記することも大切であると同時に、人の心を打つ、美しい文字も練習し、ハガキ、封書、手紙文、祝儀袋などが、適切に書けるようにする。また、好きな歌詞、詩文などの身近な作品も制作して楽しむ。</p>	
全学共通科目群	日本文化 日本の文化（華道）	<p>21世紀は「交流新時代」といわれる。15世紀にヨーロッパに波及したイタリア・ルネサンスから500年経ち、物質文明から心のコミュニケーションが重視されることから「新ルネサンス時代」ともいえる。「交流新時代」の中で特に重要なものは「自然と人との交流」である。日本の伝統文化である「華道」は、応仁の乱で荒れた室町時代に誕生し、700年余りの歴史の中で育成されてきた。日本発信の世界的な芸術文化として、新たな展開を秘めている。この授業では、自然との共存・共生の心を大切に、「華道」の美的感性と和の美意識を理論と実技を通して学ぶことができる。</p>	
全学共通科目群	日本文化 日本の文化（舞踊）	<p>芸能の始まりは、人間自身ではどうにもならない自然の脅威や生死を司ると考えられた神に対してその恐れから逃れるために慰めるパフォーマンスとして発生した。神に訴えるには特別な言葉と所作が必要だった。その所作が踊り（舞踊）である。この授業では、踊りの原初から現代に至る歴史的展開を中心に、何故人は踊るのかを考える。</p> <p>踊りの歴史的展開や踊りの持つ意味や、詳細な研究を通して、日本伝統芸能文化の特色を理解する。</p>	
全学共通科目群	日本文化 日本の文化（陶芸）	<p>人間（ひと）と陶芸（やきもの文化）の関わりは極めて幅広く奥の深いものである。この授業ではその歴史、技術の習得はもとより人間にとって重要である豊かな感性の形成を目指す。</p> <p>集中講義5日間、35時間という限られた中で、1人当り16kg（3種類）の粘土を使い5アイテム、11個の作品作りの実習をする。日本文化の理解を実習を通して創造に対する意識を刺激し、授業への興味をかきたて、よりスムーズに吸収出来るようにする。</p>	
全学共通科目群	情報 情報リテラシーA	<p>今日の社会では、あらゆる場面においてパソコンなど情報機器の使用やインターネットを利用した情報収集が不可欠になっている。このような情報化社会において、一般的な機器やソフトウェアの基本操作のほかに、ネット社会の一員として良識ある態度や自己防衛策を身につける必要がある。そこで、情報リテラシーAでは4年間の大学生活を送るうえで、最低限、身につけておくべきコンピュータ・リテラシー（コンピュータを使いこなす能力）、及び情報リテラシー（情報を使いこなす能力）を学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	情報	情報リテラシーB	<p>現在では企業だけでなく様々な組織で、パソコンを用いたデータの分析・視覚化が必要とされるようになってきている。また、わかりやすく視覚的にもインパクトのあるプレゼンテーションも活用される場面は多い。そこで、情報リテラシーBでは、表計算ソフトによるデータの分析方法と、プレゼンテーション作成ソフトを使用した研究発表・企画提案の方法を学習する。</p> <p>情報通信技術を用いて、多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用するとともに情報を発信できるようになる。</p>
全学共通科目群	海外研修	海外異文化研修A	<p>海外異文化研修Aでは、グローバル時代に必要とされる語学力と異文化理解力を身につけるために2週間の海外の提携大学にて研修を受ける。研修内容は、コミュニケーションと異文化等を中心とした授業とさまざまな社会・文化活動や、ホームステイ先の家族や他の国の学生と交流を行う。この研修により外国語で自分のことや身近な出来事等の話題にして異文化の人々とコミュニケーションを図れることを目標とする。研修参加者は、渡航前の事前ガイダンスに参加し、帰国後は報告書を提出する。</p> <p>単位は研修中の試験等の結果、活動状況、および報告書により認定する。</p>
全学共通科目群	海外研修	海外異文化研修B	<p>海外異文化研修Bでは、グローバル時代に必要とされる語学力と異文化理解力を身につけるために4週間の海外の提携大学にて研修を受ける。研修内容は、外国語でのコミュニケーション・リーディング・文法の学修・プレゼンテーション・異文化理解等の授業とさまざまな社会・文化活動や、ホームステイ先の家族や他の国の学生と交流を行う。この研修により外国語で日本や外国の文化等を話題に異文化の人々とコミュニケーションを図れることを目標とする。研修参加者は、渡航前の事前ガイダンスに参加し、帰国後には報告書を提出する。単位は研修中の試験等の結果、活動状況、および報告書により認定する。</p>
全学共通科目群	海外研修	海外異文化研修C	<p>海外異文化研修Cでは、グローバル時代に必要とされる語学力と異文化理解力を身につけるために6週間の海外の提携大学にて研修を受ける。研修内容は、外国語でのコミュニケーション・リーディング・文法の学修・プレゼンテーション・異文化理解等の授業とさまざまな社会・文化活動や、ホームステイ先の家族や他の国の学生と交流を行う。この研修により国内外において自信をもって外国語で日本や外国の社会・文化を話題に異文化の人々とコミュニケーションを図ることと、文章を理解し、メール等が書けることを目標とする。研修参加者は、渡航前の事前ガイダンスに参加し、留学中と帰国後に報告書を提出する。単位は研修中の試験等の結果、活動状況、および報告書により認定する。</p>
専門科目群	基礎科目	自然科学の基礎知識	<p>大学生として必要な自然科学の知識を習得し、併せて、就職試験対策の学習をする。人文学部では、理系分野、自然科学分野の専門科目はあまり多くない。しかし、社会人としてそうした分野の知識は必要不可欠である。できる限り多くの人文学部生にこの授業を受講して教養豊かな社会人として巣立ってほしい。</p> <p>教養豊かな社会人として理解しておくことが望ましい数学や自然科学(物理学、化学、生物学、地学)の基礎的知識を身に付ける。</p>
専門科目群	基礎科目	人文科学の基礎知識	<p>「人文学(Humanism)」の伝統に連なる「一般教養(Liberal arts)」の修得を通じて社会人としての「自己形成」の端緒をつかむ。社会人、公務員、教員にふさわしい一般教養の基礎知識を身につける。</p> <p>公務員試験、教員採用試験の教養試験の世界史、日本史、地理、思想、文学芸術、および時事の問題に対応できるようになる。</p>
専門科目群	基礎科目	社会科学の基礎知識	<p>「人文学(Humanism)」の伝統に連なる「一般教養(Liberal arts)」の修得を通じて社会人としての「自己形成」の端緒をつかむ。そのための一助として、民間企業就職試験、公務員試験、教員採用試験に出題が予想される一般教養問題のうち、特に政治(日本国憲法など)、経済(財政、金融など)、社会(社会保障、労働、環境など)にかかわる「社会科学」の問題に対応できるよう基礎知識を身につけ、さらには「時事問題」ということで、今何が問題となっているかを把握できるようになる。</p>



授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基礎科目 仕事の世界	さまざまな職業・職種の人々の仕事をVTRやDVDによって実見しそのアウトライ ン、内容を研究することにより職業選択・キャリア形成へのきっかけとする。また政治、 経済、社会、国際情勢などに関する基礎知識を踏まえ時事問題理解への一助としたい。その ため特に日本国憲法の基本原理、金融、財政、社会保障、国際政治、国際経済などの基本的 な仕組みを理解し、現在問題になっていることの原因をさかのぼって把握できるようにした い。	
専門科目群	基礎科目 生涯学習概論	生涯学習及び社会教育の本質やその意義を理解し、生涯学習および社会教育に関する基礎 的な能力を養う。 生涯学習の歴史や政策動向、社会教育の歴史や法制度、具体的な事例など、多様な視点か ら、公教育としての学習権を保障する生涯学習に関する基礎的な知識を習得する。また、現 代的課題についても適宜検討し、今後の生涯学習の展望を考える。	
専門科目群	基幹科目 心理学概論	心理学は、人間の心のはたらき、あるいはその外的表出としての人間の行動を科学的に追 究する学問である。心理学が人間科学としての独自の歴史を刻み始めたのはたかだか百数十 年前のことであるが、それ以降現在までの学問的進展および拡大には目覚ましいものがあ る。本講では、現代心理学の多様化した専門分野のうち、感覚知覚、認知、学習といった基 礎的領域の主要な理論や研究成果を概説していく。その際、初頭年次の導入教育という位置 づけを踏まえ、日常生活での身近な体験と結びつけながら、分かりやすく興味を湧く話題提 供に徹する。また、本講で取り上げるテーマは心理学史の中核をなす研究領域を構成するた め、折に触れ、過去の心理学者達の課題意識（基本的な人間観）の変遷についても解説す る。	
専門科目群	基幹科目 心理学研究法・統計法	実証的な領域の心理学において用いられる研究法の概要を、主として観察、実験、調査の 各技法ごとに概説する。特に実験的手法に関しては、実験を実施し分析して結論を得るプロ セスを理解する。さらに、心理学で用いられる統計手法および統計解析に必要な基礎的な知 識を解説する。これらによって、定量的なデータを用いて心理行動現象を検証する際に基本 となる科学的思考法の修得を目指す。	
専門科目群	基幹科目 心理学実験Ⅰ	統制された条件下で特定の変数の効果を検討する実証的な心理学的実験法の基礎を学ぶ。 ミュラーリヤーの錯視、大きさの恒常性、鏡像描写、語の記憶の各テーマについて、実験 目的の設定、方法の選定、実験の実施、結果の分析・考察、実験レポートの作成を行い、実 践的にトレーニングする。心理学実験に関する基礎的な方法論・考え方を修得する。それに 加えて、実験の報告書を作成する能力を身につける。	
専門科目群	基幹科目 心理学実験Ⅱ	心理学基礎実験で習得した実証的な心理学的実験法の理解と実践を発展させる。精神物理 学測定法、反応時間、単純接触効果、ストループ効果の各テーマについて、実験目的の設 定、方法の選定、実験の実施、結果の分析・考察、実験レポートの作成を行い、実践的にト レーニングする。心理学実験に関する方法論・考え方、報告書作成技能を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基幹科目 実験心理学	<p>実証心理学における考察の材料（データ）は、観察、面接、調査など様々な方法で得られるが、心理事象の因果関係に迫ろうとする場合は主として実験法が用いられる。本講では、他の方法の長所短所と対比させつつ、実験法の基本的な考え方とその特徴を解説する。とくに、変数の扱い（独立変数、従属変数、剰余変数）、要因計画（参加者内計画、参加者間計画、混合計画）、尺度水準と対応する統計的処理などについて詳しく述べる。また、実際に実験や調査で用いられる様々な心理測定法（精神物理学的測定法、マグニチュード推定法、一対比較法、SD法、各種評定尺度法など）についても概説する。さらに、心理データ取得に際して心得るべき研究倫理の問題についても触れる。</p>	
専門科目群	基幹科目 知覚・認知心理学Ⅰ	<p>人間を含めた動物の適応行動の出発点は外界の状況を的確に知ることであり、それは感覚、知覚、認知と呼ばれる心的機能により達成される。おおまかに分ければ、感覚は外界情報の受け取り、知覚は受け取った情報の処理（まとめあげ）、認知はまとめた情報を最終的に意味づけ解釈する過程といえる。本講では、感覚の種類と基本特性、視覚神経系の構造と機能、視知覚の基本的問題として視覚体制化と錯視、認知機能の中核をなす記憶の仕組みと種類などについて概説していく。とくに、人間にとってもっとも重要な視覚情報処理の様相を詳しく説明し、その力動性と柔軟性を描き出していく。また、ソフトウェアとしての心の働きを支えるハードウェアの一例として眼球（とくに網膜）を取り上げ、その精緻な構造とともに、視機能障害（視力障害、色覚障害など）の仕組みについても解説する。</p>	
専門科目群	基幹科目 知覚・認知心理学Ⅱ	<p>本講は、認知・知覚心理学Ⅰの発展的科目として、さらに専門的な話題を取り上げていく。具体的には、まず視知覚の諸側面として、奥行き視、運動視、視覚恒常性を取り上げる。これらは、いずれも人間の適応行動を支える必須の基盤でありながら、ふだん我々はその働きについて意識していない。意識せずすむほど高度に完成された巧妙な営みであることを強調し、人間の視知覚がいかに優れたものであるかを理解させる。つぎに、認知の発展的問題として、情報処理の双方向性（ボトムアップ処理とトップダウン処理）、知的問題解決、創造的思考などについて解説する。これらの諸問題を通じて、人間が行う認知活動の柔軟で創造的なポジティブな側面と、様々な認知バイアスに縛られ、ときに合理性すら欠くネガティブな側面の両面を描き出していく。</p>	
専門科目群	基幹科目 発達心理学	<p>人は環境とかがわることで、様々な心理的機能が変容していく。それは受胎から死にいたる時間のなかで継続的に生じ、人の心身における普遍性と個性を生み出していく。本講義では、発達を規定する諸側面について考えるとともに、各段階における認知機能の発達や感情・社会性の発達、個性の発現、発達のなつまづきや課題および発達障害等非定型発達についても検討していく。</p> <p>現代社会における子育てや親子関係、自立といった問題について生涯発達の視点から考え、学校教育・福祉の分野で役立つような姿勢を培っていく。</p>	
専門科目群	基幹科目 教育心理学	<p>学校、地域社会、および家庭において子どもが直面している様々な問題・背景について心理学的など科学的な視座から合理的に理解する。教育者の立場として、子どもの健全な発達・成長および学びの機会を保障し、支援するための実践的な心理学的な知識や応用可能な技能を習得する。さらには、子どもを指導する立場にある人の取り巻く状況などについても心理学的な観点から理解を深め、子どもを支援するためあるべき姿について考察する。児童生徒の個性化・社会化に影響を及ぼす教育的な働きかけの意義を心理学的な理論や実証的研究成果から理解し、教育実践に活かそうとする。</p>	
専門科目群	基幹科目 臨床心理学概論	<p>臨床心理学とは、心理的要因が関与し日常生活に困難を抱える個人や集団に対して、より適応した生活を送るために行われる心理学に関連する知見と方法を用いた専門的な援助体系である。「臨床心理学概論」では、1. 歴史的背景から臨床心理学の基本的発想である精神力動論、行動理論、人間性心理学理論などの諸理論を説明できる、2. 臨床心理アセスメントの理論と実践、臨床心理面接の基本的な方法論と実践に関して説明できる、3. 臨床心理学が大きく関わる発達、行動、精神の問題を抱える者への対応について説明できる、といった3点を目的とし解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 基幹科目	感情・人格心理学Ⅰ	心理・行動の発現の科学的理解について、感情および人格（パーソナリティ）の両面から解説する。そこではまず、感情に関する理論や感情喚起のメカニズムを論じた後、感情が行動に及ぼす影響を考察する。続いて、人格の概念および形成過程を解説し、類型論、特性論を含む人格理論について解説を行う。	
専門科目群 基幹科目	感情・人格心理学Ⅱ	本講義では「感情・人格心理学Ⅰ」に引き続き、心理・行動の発現の科学的理解について、感情および人格（パーソナリティ）の両面から、より発展的な知見を解説する。まず、感情に関しその機能をふまえつつ、発展的な理論とメカニズムに関する知見を紹介する。その後、人格の機能や人格の発達の側面に言及し、これらが全体として心理行動の形成に果たす役割を論じる。	
専門科目群 基幹科目	社会・集団・家族心理学	社会・集団心理学では、社会の中で人が行動する際の行動や思考について理解を深めることを目的とする。そのために、1)対人関係や集団における人の意識や行動についての心の過程、2)人の態度や行動、3)家族や集団や文化が個人に及ぼす影響といった問題を検討し理解する。講義内では社会心理学および集団心理学で実施されてきた様々な実験や調査に関する知見を紹介しながら、それらの基礎となっているメカニズムについて解説する。	
専門科目群 基幹科目	対人認知論	人に関する社会的情報を受ける取る際に、おこなっている情報処理の様式によって、人に対する認知や行動が異なることが知られている。本講義では「情報处理的アプローチ」に基づき、対人認知に関する様々なメカニズムと、そこから理解される社会的問題を取り上げ解説していく。具体的なトピックスとしては、第一印象の形成、ステレオタイプ、偏見などと取り上げる。	
専門科目群 基幹科目	適応の心理学	人間を含むあらゆる動物は、遺伝、形態、生理、行動、内的な情報処理などの様々な次元において環境に適応すべく駆り立てられている存在としてとらえることができる。この授業では、広義の環境に対する人間の適応を論じる。まず、人間の適応に関する一般的な問題を論じ、適応に関する概念を整理した後、特に、近年興隆した進化心理学を中心に人間の行動特徴がどのような生物学的適応の背景をもつかを様々な適応課題の観点から考察する。	
専門科目群 基幹科目	学習・言語心理学	学習とは一般に、経験による比較的永続的な行動の変容と定義される。人間の行動の多くは学習によって獲得されていると考えられており、学習過程の理解は心理行動の科学的理解にとってきわめて重要である。本講義ではまず、条件づけの理論を含む一般的な学習理論について実験的知見を含めて詳述する。さらに、特殊かつ人間にとってきわめて重要な学習として言語に焦点を当て、その習得過程を中心として言語獲得を論じる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基幹科目 神経・生理心理学	神経生理・生理心理学では、1)脳神経系の構造と機能が理解できる、2)歴史的背景と神経科学などの隣接諸科学との関わりと位置づけが理解できる、3)記憶や感情などの心理機能に関連する生理学的反応の機序が理解できる、4)脳波などの生理指標の測定原理および適用範囲が理解できる、5)様々な心理学の諸領域における生理指標の適用例が理解できる、6)高次脳機能障害が理解できる、以上の6つを目標として解説し、精神活動の生理的機序について理解することを旨とする。	
専門科目群	基幹科目 公認心理師の職責	公認心理師の職責について講義を行う。公認心理師の保健医療、福祉、教育その他の分野における業務内容や法的義務について解説する。また、多職種連携・地域連携による支援の意義についても取り上げ、守秘義務や情報の適切な取り扱い方についても解説する。さらに、心理的支援を要する者の安全を最優先し、常に利用者中心の立場に立つという姿勢や、社会とともに変化していく公認心理師に対するニーズに応えられるよう、生涯にわたり自己研鑽を続ける姿勢の重要性についても取り上げる。	
専門科目群	基幹科目 比較文化論	「文化とは民族のありようである」という言葉がある。この「民族のありよう」を、相対的な視点をとおして見ることで、人間の営みの差異と類似、そしてその必然性を考える。本講では、日本人論をはじめ、食生活、衣生活、文学など、いくつかのテーマをとおして、ある特定の社会、あるいはそこに住む人々を「正しく」理解する術を身につけることを目的とする。さらに、過去から現代までの来日外国人の日本および日本人観察の記録を中心に、諸外国人の見た異文化としての日本の姿も取り上げる。	
専門科目群	基幹科目 心理統計法Ⅰ	人間の意識、行動等のデータについて、統計処理の理論と具体的な技術を習得する。確率と統計に関する基礎的理解を深め、各種統計量、有意差検定、など統計学の基礎理論と実際の処理法を学ぶ。人間活動の様々なデータの分布に関する理解を重視して、統計処理の表層的な結果ばかりでなく、統計理論に基づく正確な解釈能力を育成する。	
専門科目群	基幹科目 心理統計法Ⅱ	心理学の実証のために利用されている統計の基本を習得することにより、文献における統計結果の理解を可能とし、かつ自らも統計法を使用して心理学データを分析できるようにする。特に、「心理統計法Ⅱ」では、「心理統計法Ⅰ」を踏まえて、差の検定としてt検定、カイ二乗検定、順位による検定を習得する。	
専門科目群	基幹科目 心理統計法Ⅲ	「心理統計法Ⅲ」では、心理学の実証研究を行う際に必要となる統計的手法の基本的な技法および考え方について、分散分析、因子分析、回帰分析、古典的テスト理論というトピックを取り上げ、解説する。 心理学の研究で利用される統計的手法の“考え方”あるいは“筋道”のより深い理解を目指す。これにより、データ分析における統計的手法の選択、指標の適切な解釈を行うことができるようにすることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基幹科目 心理学英文講読Ⅰ	本講は、大学院進学希望者を中心とする英文講読である。「心理学英文講読Ⅰ」では、比較的短いコラムなどを用いながら、これまでに学んだ文法の復習や語彙を増やすこと、また、語彙の知識のなかで不確かな部分を確認し、英語の基礎を着実に身につけることを目標に授業をすすめる。	
専門科目群	基幹科目 心理学英文講読Ⅱ	本講は、「心理学英文講読Ⅰ」の履修済みの学生を中心に授業をすすめる。「心理学英文講読Ⅱ」では、日米などの比較を通して、過去から現代にいたるそれぞれの文化を形成する歴史や、そうした文化が作り上げる人間の心理を学びながら、長文読解し、ひいては、外から見た日本にまで目を向けることを目標に授業をすすめる。	
専門科目群	展開応用科目 コミュニケーション心理学	現代社会において、コミュニケーション能力は社会生活を送るうえでさまざまな場面で求められる。しかし、そもそもコミュニケーション能力が高い人、低い人とは、どのような人なのであるか？ そうでない人とは何が違うのだろうか？ 本講義では、対人関係の技術とも呼ばれる「ソーシャルスキル」について学ぶとともに、簡単な演習を通して、ソーシャルスキルの習得を目指す。また、その背景にはこれらの理論の基礎となるさまざまな研究があり、それらについても紹介する。	
専門科目群	展開応用科目 心理測定法	心理学の研究において構成概念の測定は重要な問題の一つであり、心理学の理解のためには個々の研究で使用している測定法の理解が必須である。そこで、この授業では構成概念の測定はどのような考えに基づいているのか、そしてどのような方法があるのかについての基礎を学ぶ。具体的には、科学における測定とは何かについて概説し、次にさまざまな測定の基礎的理論を解説する。その後、実際の研究で使用されている代表的な測定方法を、実例を踏まえて紹介する。授業においては、測定することの意味や測定法のさまざまな理論や具体的測定方法について理解することを目的とし、卒業研究などで研究を計画する際の基礎知識を身につける。	
専門科目群	展開応用科目 動物心理学	この授業では、動物行動に関する様々な研究成果を紹介し、動物の「こころ」の理解に迫る。そこではまず、動物の進化と分類にはじまり、動物の「心」の理解に関する問題や重要概念を論じる。さらに、動物の知覚・認知、社会行動、婚姻制などについてこれまでの研究成果を紹介する。	
専門科目群	展開応用科目 色彩心理学	我々が色彩と呼ぶ知覚経験は、光（可視放射）という物理エネルギーをもとに視覚情報処理の過程で作られる完全に内的な性質のものである。その意味で、色彩に関わるあらゆる問題が心理学の対象となる。とくに色彩は、光を内的に処理した「心理作用の結果」としての一面（色彩知覚）と、知覚された色彩が人の感情や行動に影響する「心理作用の原因」としての一面（色彩効用）を併せもつ、大変ユニークな問題である。本講では、このように多岐にわたる色彩心理学の全体像を体系的に概説する。具体的に、色覚の元になる視覚情報処理の仕組み、色彩知覚の諸特性（同化・対比、恒常性、色の現れ方）、色彩を体系的に表示する方法（混色系と顕色系）、色の知覚的・認知的・生理的・感情的・行動的影響、色の好み、配色調和などの諸問題を取り上げていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開応用科目 教育・学校心理学	主に、学校という場での臨床心理学的支援について解説します。発達段階によって、子どもたちが抱える課題は異なり、また、保護者の方が抱える悩みや心配も違ってきます。主に、臨床心理学や発達心理学の視点から、学校における臨床心理学的支援の意義と難しさについて解説します。その際、学校という臨床現場の特殊性や、教員などと他職種との連携の重要性についても取り上げます。	
専門科目群	展開応用科目 障害者（児）心理学	障害者（児）の心理や特性は障害の種別や程度によって異なっている。したがって、その教育や療育も個別の視点が求められる。このことを踏まえ、障害を理解する観点から様々な障害についてその特性を学ぶ。また、多様な身体障害・知的障害・精神障害の特性について理解を深めることにより、ノーマライゼーションの理念を培う。さらに、障害をもつことによって生じる様々な心理社会的課題に対する基本的な対応及び支援について習得する。なお、近年課題となっている高齢者に対する支援も取り上げる。具体的な内容として、障害の概念、障害者（児）の早期発見および早期療育、各障害特性の理解、発達障害・軽度発達障害、認知症などの特性理解と具体的な支援計画および対応について、などを論じ、必要に応じて事例研究も紹介し、実践力につなげる。	
専門科目群	展開応用科目 生涯発達心理学	理念として老人を敬愛する（老人福祉法）だけではなく、実態的にも高齢者でなければ下せない判断や見識もある。流動知と結晶知の分類にあるように、人間は生涯にわたって発達し無類の境地を切り開いていく余地を残している。無用なエイジズムを排斥し、高齢者であっても、あるいは高齢者であるからこそ可能な「発達」の局面を明らかにする。他方、無縁死・漂流といった中高年期のアイデンティティ形成やライフアーク感についても家族関係論、産業心理学との関連で講義する。	
専門科目群	展開応用科目 児童心理学	この授業では主に幼児期から児童期、思春期の子どもの心理および行動の発達を扱う。まず、このライフステージにおける発達の基本的な原理や古典的理論を紹介し、その後、比較的新しい発達の理論や研究を紹介する。また、認知機能の発達や社会性、運動機能などの発達だけでなく、発達のなつまつきや課題についても検討する。さらに、現代社会における子育てや親子関係、自立といった問題についても現実に生じている事件や現象への考察を通して人間発達への理解を深める。講義を通して、子どもを理解するための視点と方法を学び、子どもの心理発達に関する正しい知識を獲得することを目指す。	
専門科目群	展開応用科目 家族心理学	家族の成り立ちや家族の歴史から、現代の家族が抱える課題について解説を進めていきます。その際、とくに親子関係に注目し、親の子どもをめぐる思いや、親にとっての子どもの価値についても取り上げます。さらに、社会における子育て支援の歴史や現状、課題についても触れていきます。 現代社会における家族が抱える課題について、理解することを目標とします。	
専門科目群	展開応用科目 産業・組織心理学	多くの人は何らかの職業に就き、組織に参入することになる。このため、産業・労働分野におけるさまざまな心理学的知見について、学んでおくことが必要となる。このような視点を持つことにより、職場における組織現象の理解につながると考えられるからである。本講義では1)産業・労働分野について基本的な事項を心理学的知見から検討し、2) 職場における問題に対して必要な心理に関する支援についての知識も身につけることを目的としている。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開応用科目 環境心理学	<p>本講義では、地域からグローバルなレベルまでの多様な環境についての認知・態度・行動について、環境問題を再現したゲームシミュレーションにより理論と体験の両面から環境問題を分析しながら学ぶ。あわせて環境保全に対して心理学はどのような貢献ができるのかを考える。公益と私益が対立する環境問題として身近な、ごみ問題の事例を主にとりあげるが、本授業に関わるタイムリーな社会的イベントに関連した他の環境問題も適宜扱う。</p> <p>環境心理学の理論と実際についての基礎的知識を学習し、あわせてゲーミングシミュレーションへの参加によって、現実の問題と理論との関連についても理解する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 応用心理学	<p>心理学には様々な分野が存在する。本講義では、「心理学」について取り上げる。多くの学生の関心を集め、人気の高い心理学であるが、世間一般では、少々誤解されている学問であると言える。例えば、ゲーム感覚の本や占いなどといった興味本位のものや、また心理学と聞くとカウンセリングなどの心理臨床関係の研究や仕事と結び付ける人が多い。本講義を通して、心理学が身近に溢れていると感じ、社会の問題解決に対して大きな役割を担っていることを理解してもらいたい。</p> <p>1. 応用心理学が幅広い研究領域から成り、また私たちの身近にあることを知る。2. 社会に対し心理学が果たしている役割を理解する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 文化心理学	<p>文化心理学では、ひとが文化の中に生き、文化の中で暮らしていく中で、どのような「こころのしくみ」が形成され、維持・変更されていくのかを検討する。特に、ひとの行動に影響を与える「心の文化差」について検討する。こころを理解する上で文化がどのような役割を担っているのか理解する。こころが文化的にどのように多様であるのかを理解する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 心理的アセスメント	<p>心理アセスメントの手法について講義を行う。アセスメント面接で取り扱う情報やアセスメント面接の実施法について解説を行う。また、支援を要する者等と関わりながら行動観察を行うことからアセスメントする際の視点や留意点などについても解説する。さらに、心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義や限界について取り上げ、基本的な心理検査について実施法と解釈法を解説し、アセスメント面接、行動観察、心理検査の結果等を統合し、包括的な解釈を行う必要性を理解する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 精神疾患とその治療	<p>現在、精神疾患を診断する際には、アメリカ精神医学会による「DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル(2014)」やWHOによって作成された「ICD-10(1993)」が用いられている。精神疾患の治療は、これらの基準が作成されたことで進歩してきた。「精神疾患とその治療」では、1. DSM-5とICD-10を基準とし、代表的な精神疾患の成因や症状、診断法について説明できる、2. アメリカ精神医学会や英国国立医療技術評価機構などのガイドライン、エキスパートコンセンサスガイドラインを参考にし、わが国で用いられている治療方法や家族への支援、コンサルテーションの必要性について説明できる、3. 治療に用いられる、精神科治療薬の基本的な効果効能・副作用に関する知識についても説明できる、といった3点を目的とし解説する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 健康・医療心理学	<p>「健康・医療心理学」では、1. ストレスについて正しく理解し、ストレスと疾病との関係について説明できる、2. 心身症といった身体疾患を抱える者の心理的問題およびその支援方法について説明できる、3. 保健活動の一環として、予防行動の重要性および具体的方法論について説明できる、4. 災害時に引き起こされる心理的状態について正しく理解し、そこで必要となるケアについて説明できる、といった4点を目的とし解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	展開 応用 科目 福祉心理学	本講義では、社会福祉の現状と課題を解説しつつ、これらに関する心理学的な観点からの改善策を論じる。ここでは、福祉の現場で生じる心理的な問題に関する研究知見を、社会福祉の視点と心理学的な視点をあわせながら解説することになる。特に、本人や家族への支援を中心に、福祉現場の具体例にふれながら、必要とされる心理的支援を考察する。	
専門 科目 群	展開 応用 科目 心理学的支援法	さまざまな心理療法やカウンセリングの歴史、概念、背景にある理論や人間観、意義及び適応について解説し、心理療法やカウンセリングは実施者の能力等によって限界があることについても触れる。また、心理的支援を行う際には、支援を要する者のプライバシーに配慮する責任があることや、支援を行う際の記録や報告書の取扱いについても解説する。さらに、対人援助職において必要とされるコミュニケーション能力についても取り上げる。	
専門 科目 群	展開 応用 科目 司法・犯罪心理学	本講義では、司法および犯罪に関する心理学的な知見を概説する。ここでは家事紛争および犯罪に関する心理社会的問題を解説した後、当事者、とりわけ犯罪における加害者の処遇と矯正に関する理論と技法を解説する。さらに被害者に対する心理的支援を論じ、当該領域の多角的理解を目指す。	
専門 科目 群	展開 応用 科目 調査法 I	質問紙による調査の方法についての講義を行う。特に社会学的、心理学的調査法の基礎となる質問紙調査についての概要を説明することを目的とする。すなわち、卒論や演習等で実際に調査研究を行う際に必要となる社会・心理調査の質問紙作成を、その過程に沿って説明する。具体的には、調査対象者の抽出（サンプリング）、調査内容による回答形式の違い、質問文におけるワーディングの問題、および質問紙のレイアウト等の内容を中心に講義を行う。	
専門 科目 群	展開 応用 科目 調査法 II	私たちの周りにある様々な社会事象と、それに関わる人間の意識を調べるための方法の一つである質問紙調査について実習する。具体的には、データの分析方法を実習する。これには分析で用いる統計法についての説明と、コンピュータの利用方法、SPSS (Statistics Package for Social Science) 言語の実習を含む。調査から得られたデータの処理、分析方法を修得する。	



授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開応用科目 行動観察法	我々は、日常でただ事象を“見る”だけでなく、“観察する”ことから多くのことを学ぶことができる。観察は事象を注意深く見きわめることであり、基本的な資料収集の手段である。一般社会においても、対象となるあらゆる行動・事象を、さまざまな角度から捉えることが出来る視点を養う必要がある。この授業では、人間や動物の行動を観察し、記録・分析していくことで、ある行動の規則性や特徴、なぜそのような行動が生じたのかという因果関係などを明らかにしていく、心理学における観察法の基本を、実際に体験しながら学ぶことを目的とする。具体的には、観察法の意義や特性を理解するとともに、心理学における他の研究法との違いを理解し、観察研究の計画立案、実施、まとめが出来るようになることを目的とする。 実習を行なう中で、それぞれの観察形態にふさわしい観察テーマ選びが出来るようになるとともに、自分たちが行なった観察の方法・結果を、他者にわかりやすくプレゼンテーション出来るようになることを目標とする。最終的には、卒業研究や一般社会におけるマーケティングなど、それぞれの興味・対象・研究目的に沿った適切な場面で、適切な観察形態や記述形態を用いることが出来るようになることを目標とする。	
専門科目群	展開応用科目 面接法	心理学における面接法は、大きく臨床的面接と調査的面接の2つに分類される。本授業では、実習を通して臨床的面接および調査的面接の違いを理解することを目的とする。また、それぞれがテーマに合わせて調査的面接を企画・実施し、結果をまとめることが出来るようになることをねらいとする。	
専門科目群	展開応用科目 社会調査論	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を含む。	
専門科目群	展開応用科目 調査演習 I	調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。特に、「調査演習 I」では、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定をおこなう。本演習の目的は、調査の立案から報告書の作成まで実習をおこない、調査の技法を習得することである。	
専門科目群	展開応用科目 調査演習 II	調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。特に、「調査演習 II」では、「調査演習 I」を踏まえ、調査の実施(調査票の配布・回収、面接)、インタビューなどのフィールドワーク、集計、分析、仮説検証、報告書の作成をおこなう。本演習の目的は、調査の立案から報告書の作成まで実習をおこない、調査の技法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開応用科目 ことばと認知	ことばそのものが持つ機能的な特長として、音声、文法、意味、発話行為が存在し、そうした機能を利用して、外界世界の認識やコミュニケーションといった役割を遂行している。本講義では、ことばの持つ特長について、言語心理学側面、認知科学的側面および言語哲学的側面などから考察する。 ことばが心理あるいは認知（認識）機能といかに深く結びついているのかをさまざまな側面から理解する。	
専門科目群	展開応用科目 論理と認知	論理についての研究は、主に、哲学の分野（哲学的論理学）および数学の分野（数学基礎論）においてなされている。また、論理そのものに関しては、演繹論理と帰納論理の2つに大別され、演繹論理については、古典論理と非古典論理という2種類の論理に大別される。さらに非古典論理には直観主義論理、量子論理、様相論理、矛盾許容論理などが含まれている。 本講義では、なぜこのようにさまざまな「論理」が存在するのか、また、そうしたさまざまな論理が人間の心理や認知機能、認識機能とどのように結びついているのかについて考える。なお、授業は数学的な手法を利用し、記号を多用する。	
専門科目群	展開応用科目 人体の構造と機能及び疾病	心身機能と身体構造ならびに様々な疾病や障害について、人間の成長と発達および日常生活での関連を踏まえて解説を行い、リハビリテーションに関わる支援について解説する。さらに、がんや難病等の心理的支援が必要な主な疾病について解説する。がんや難病を抱えた患者には、抑うつや不安がみられることが多い。がんや難病の告知や再発、症状悪化や痛みなど、精神症状の背景にあるストレスの理解や、精神症状に対するケアの重要性を取り上げる。	
専門科目群	展開応用科目 関係行政論	社会の中に心理臨床場面は多く存在しており、心理職にあるものは様々な領域の法律や制度にしたがって活動する必要がある。本講義では、(1)保健医療分野、(2)福祉分野、(3)教育分野、(4)司法・犯罪分野、(5)産業・労働分野、以上の5つの領域における法律や制度を学び、法の下で適切に活動できるようにする。	
専門科目群	展開応用科目 心理演習	ロールプレイングを通じて、心理アセスメントや心理面接について体験的に学ぶ。心理アセスメントに関しては、模擬事例に対してアセスメント面接で取り上げるべき事項を整理し、ロールプレイングによってアセスメント面接を実施する。さらに、そこで得られた情報を踏まえて、必要な心理検査を実施し、解釈レポートを作成する。心理面接に関しては、ロールプレイングによる心理面接を複数回行い、逐語記録をもとに事例検討会にて面接過程を振り返り、指導を行う。	
専門科目群	展開応用科目 心理実習	保健医療、教育、福祉、司法・法務・警察、産業・労働等の施設において、見学による実習を行いながら、実習施設の指導者による指導を受ける。指導者が実施する心理検査、心理状態の観察及び分析並びに支援等を見学し、事例について検討を行う。また、多職種を交えて支援の方針等を検討するケースカンファレンス等にも参加する。これらの実習の後には、関わった事例についての報告書を作成する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目群	演習科目 基礎演習Ⅰ	「基礎演習Ⅰ」・「基礎演習Ⅱ」は、大学での学習への導入をはかるとともに学習の基礎作りを行い、段階的に、より高度で専門的な学習へ導いていくための授業である。内容には、ノートの取り方、テキストの読み方、図書館やインターネットを利用した文献検索・情報検索、レポートの基本的な書き方、コンピュータ・プレゼンテーションを用いた口頭発表の方法などが含まれる。「基礎演習Ⅰ」では特に、心理学科での学習の基礎を養成するため、大学生活への円滑な移行を支援するとともに学習の基本となるトレーニングを行う。	
演習科目群	演習科目 基礎演習Ⅱ	「基礎演習Ⅰ」・「基礎演習Ⅱ」は、大学での学習への導入をはかるとともに学習の基礎作りを行い、段階的に、より高度で専門的な学習へ導いていくための授業である。内容には、ノートの取り方、テキストの読み方、図書館やインターネットを利用した文献検索・情報検索、レポートの基本的な書き方、コンピュータ・プレゼンテーションを用いた口頭発表の方法などが含まれる。「基礎演習Ⅱ」では特に、「基礎演習Ⅰ」で習得したことを基礎として、よりレベルの高い文書作成、情報検索をグループおよび個人で実施するとともに、論文・レポートの口頭発表(プレゼンテーション)をおこなう。	
演習科目群	演習科目 基礎演習Ⅲ	「基礎演習Ⅲ」・「基礎演習Ⅳ」は、総合演習において卒業研究を実施する前段階として、研究へのモチベーションを高めつつ、研究的な問題意識を醸成し、研究に必要な考え方とアプローチの方法を段階的に習得する授業である。「基礎演習Ⅲ」では、心理学関連領域におけるさまざまな問題に向かうモチベーションの養成、基本的な思考法を身につけるための様々な課題を実施する。そこでは、心理学的な問題の明確化、検討方法の策定、先行研究の読解などに関するさまざまな課題が用意される。これらの課題にチャレンジする中で、受講生は「基礎演習Ⅰ」・「基礎演習Ⅱ」の学習を基礎としつつ「こころ」の研究の入り口に立つとともに、報告書の作成、口頭発表、討論の技術をさらに学ぶことになる。なお、「基礎演習Ⅰ」・「基礎演習Ⅱ」と同様、授業は合同で行われる場合もある。	
演習科目群	演習科目 基礎演習Ⅳ	心理学関連領域における問題意識の明確化、基本的な思考法をさらに習得するための様々な課題を実施する。そこでは、心理学的な問題の把握、研究方法の検討、先行研究の読解、実証データの読み取り、結論の導出などに関するさまざまな課題が用意される。これらの課題にチャレンジする中で、受講生は「基礎演習Ⅲ」の学習を基礎として、心理学研究への理解を深めるとともに、卒業研究を念頭においた研究の方法、それに付随するさまざまなスキルを習得する。なお、「基礎演習Ⅰ」～「基礎演習Ⅲ」同様、授業は合同で行われる場合もある。	
演習科目群	演習科目 総合演習Ⅰ	総合演習は、ゼミ担当教員の緊密な指導の下、心理学を中心とする「こころ」を対象としたテーマについて、卒業研究等の作成を目標に総合的な学習を進める授業である。「総合演習Ⅰ」では、主に各ゼミ担当者の専門領域を中心として、「こころ」の理解について先行研究の知見とアプローチ方法を学んでいく。心理学に関する基本的な授業、心理学の方法論を学ぶ授業に加え、各ゼミ担当者の専門領域に関連する授業をできるだけ履修しておくこと。	
演習科目群	演習科目 総合演習Ⅱ	総合演習は、ゼミ担当教員の緊密な指導の下、心理学を中心とする「こころ」を対象としたテーマについて、卒業研究等の作成を目標に総合的な学習を進める授業である。「総合演習Ⅱ」では、「こころ」に関するテーマを設定して研究を開始する。「総合演習Ⅰ」と同様、心理学に関する基本的な授業、心理学の方法論を学ぶ授業に加え、各ゼミ担当者の専門領域に関連する授業をできるだけ履修しておくこと。	

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目群	演習科目 総合演習Ⅲ	総合演習は、ゼミ担当教員の緊密な指導の下、心理学を中心とする「こころ」を対象としたテーマについて、卒業研究等の作成を目標に総合的な学習を進める授業である。「総合演習Ⅲ」では、「総合演習Ⅰ」および「総合演習Ⅱ」をふまえ、「こころ」に関する自身の研究テーマについて継続して卒業研究を行い、その成果を卒業論文としてまとめることを目的とする。「総合演習Ⅰ」および「総合演習Ⅱ」と同様、心理学に関する基本的な授業、心理学の方法論を学ぶ授業に加え、各ゼミ担当者の専門領域に関連する授業をできるだけ履修しておくこと。	
演習科目群	演習科目 総合演習Ⅳ	総合演習は、ゼミ担当教員の緊密な指導の下、心理学を中心とする「こころ」を対象としたテーマについて、卒業研究等の作成を目標に総合的な学習を進める授業である。「総合演習Ⅳ」では、「総合演習Ⅰ」～「総合演習Ⅲ」をふまえ、「こころ」に関する自身の研究テーマについて継続して卒業研究を行い、その成果を卒業論文として完成することを目的とする。また、卒業論文提出後は、卒業研究発表会にむけた準備作業を実施する。「総合演習Ⅰ」～「総合演習Ⅲ」と同様、心理学に関する基本的な授業、心理学の方法論を学ぶ授業に加え、各ゼミ担当者の専門領域に関連する授業をできるだけ履修しておくこと。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

## 学校法人東海学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東海学園大学				東海学園大学				
経営学部				経営学部				
		3年次				3年次		
経営学科	230	5	930	経営学科	230	5	930	
人文学部				人文学部				
		3年次				3年次		
人文学科	100	3	406	人文学科	100	2	404	定員変更(△1)
心理学科	100	2	404	心理学科	0	0	0	<small>平成30年4月学生募集停止 平成32年4月編入学生募集停止</small>
教育学部				心理学部				
		3年次				3年次		
教育学科	150	5	610	心理学科	100	2	404	学部の設置(届出)
スポーツ健康科学部				教育学部				
		3年次				3年次		
スポーツ健康科学科	235	5	950	教育学科	180	5	730	定員変更(30)
健康栄養学部				スポーツ健康科学部				
		3年次				3年次		
管理栄養学科	120	-	480	スポーツ健康科学科	260	5	1,050	定員変更(25)
計	935	20	3,780	健康栄養学部	120	-	480	
				管理栄養学科				
				計	990	19	3,998	
東海学園大学大学院				東海学園大学大学院				
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻(M)				経営学専攻(M)				
	20	-	40		20	-	40	